

お盆Q&A

先祖の靈を迎える、供養する…

お盆月が7月の場合
7/13~16

お盆月が8月の場合
8/13~16

- 準備すること**
- 1ヶ月前までに
 - ①初盆法要の日程を決定
 - 初盆には、一般的に菩提寺の僧侶に棚経をあげてもらいます（一般的に14日または15日）。檀家の数によっては、前倒しで行う場合があるので、菩提寺に早めに相談してください。
 - ②返礼品の準備
 - 初盆供養に来ていたい方への返礼品の準備をします。
 - ③初盆用の盆提灯を購入
 - ④お盆棚（精霊棚）の準備
 - ⑤盂蘭盆会の出欠の連絡
- お盆の期間中、菩提寺では盂蘭盆会という法要を執り行います。参列する場合は、菩提寺に連絡しておきます。

初盆供養の仕方

- 13日（お迎えの日）
 - ①ご仏壇からお位牌を出し、お盆棚の中央に置き、お供物や仏花を供え、ご仮壇の扉は閉じておきます。
※写真参照
 - ②日中にお墓参り
 - ③夕方、迎え火を焚きます
- 14日（お送りの日）
 - ①お盆提灯のお支度
 - ②新しいロマンタやお線香、迎え火や送り火などのお支度
 - ③お盆棚のお支度
 - ④お供物のお支度
 - ⑤お墓の掃除（13日のお墓参りに合わせて行う場合があります）

- A** やぐらを囲んで輪になつて踊る夏祭りの定番「盆踊り」も、実はお盆に帰つてくる先祖の靈を慰め供養するものです。ルーツは平安時代の僧・空也が始めた踊り念佛といわれ本来は
- Q** 盆踊りはお盆に関係があるの？



お盆の15日の夜に踊つて先祖の靈との別れを惜しみ、翌日、精霊送りをしていました。静岡市葵区有東木に伝わる「有東木の盆踊り」は、この特徴を濃く残しています。盆に先祖を迎えて深夜まで踊り続け、最後に村外れまで練り歩いて先祖を送り出す、という盆踊り本来の意義を今に伝える貴重な民俗芸能で、国的重要無形民俗文化財に指定されています。



Q 迎え火と送り火の意味は？

A 「迎え火」は先祖の靈が現世に帰つてくる時の目印になり、「送り火」は先祖が無事に帰ることを祈つて、私達がしっかりと見送つている証です。ほとんどの地域では、迎え火は8月13日（7月13日）の盆入り、送り火は8月16日（7月16日）の盆明けに行います。迎え火（送り火）は、素焼きのお皿でオガラ（皮をはいた麻の茎）、または松明を燃やします。玄関先で行うほか、お墓で行う地域などもありますが、マンションなどで火を焚くことが難しい場合は、白提灯を玄関や窓際に吊るして代用してもいいでしょう。

Q 初盆の準備と供養の仕方は？

A 家族が亡くなつて初めて迎えるお盆を「初盆」「新盆」と言い、特に丁寧に供養します。四十九日前にお盆を迎えた場合は、翌年が初盆となります。初盆には近親者や親族だけでなく、友人などを招く場合もあり、遺族にとっては忌明け後に行う大切な法要の一つです。一般的にお盆棚（精霊棚）を作つて先祖の位牌を中心にして、お供えものを用意し、菩提寺の僧侶にお経をあげてもらいます。地域や宗派によって内容が異なる場合があるため、不明な点は菩提寺へご相談ください。

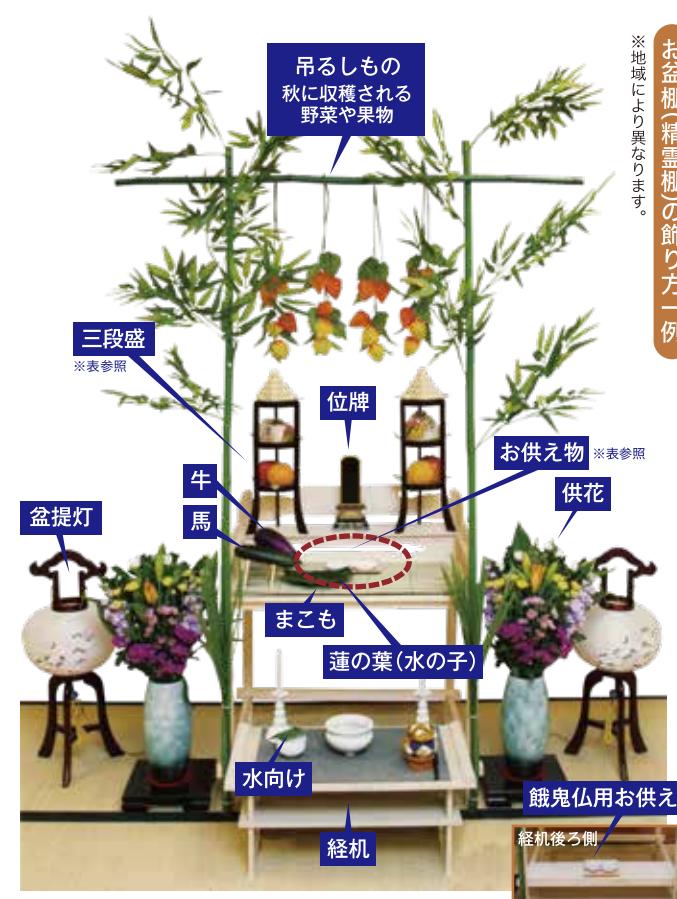
お盆は先祖の靈を迎えてお祀りし、先祖との命のつながりを確認する日です。日本でお盆の行事が最初に行われたのは聖徳太子のいた飛鳥時代にさかのぼります。仏教ではお盆のことを「盂蘭盆会（うらんぼんえ）」と言い、「盂蘭盆經」というお経に説かれているお釈迦様の弟子、目連の話に由来します。

その話とは、ある日、目連が神通力を使って母親の死後の世界を覗き見ると、餓鬼道に墮ちて飢えと渴きに苦しんでいます。お釈迦様に母親を救う方法を尋ねると、「僧侶が雨季の修業を終える7月15日（現在の8月中旬頃）に多くの飲食物を用意し布施行すれば、七代前の先祖から今の両親に至るまで、その苦しみから救えるだろ」と言されました。そこで目連がその通りに実践したところ、母親は無事に極楽往生でき、それ以来、先祖や父母に感謝し、供養を積む日になったというものです。

A 起源はインド、お釈迦様の弟子があの世で苦しむ母親を助けた行いから…：

お盆の由来は、あの世で苦しむ母親を助けた行いから…：

お盆棚（精霊棚）の飾り方一例
※地域により異なります。



お盆棚のお供え物		※表	
13日	14日	15日	16日
上段(団子)	中段(菓子)	下段(果物)	
●糸切り団子	●つみ団子		
《朝》●七色汁・白飯 《昼》●おはぎ 《夜》●酢の物・白飯	《朝》●あつめ汁 (ごぼう・人参) 《昼》●おはぎ 《夜》●瓜もみ (きゅうりの酢味噌合え)		
《朝》●冷汁・白飯 《昼》●そうめん 《夜》●揚物・白飯	《朝》●八はい豆腐 (揚げ豆腐・しいたけ汁) 《昼》●そうめん		
●煮物・白飯	●おにしめ(野菜のにしめ)		

■水の子: サイの目に切ったナスとキュウリ、洗米を蓮の葉を敷いた皿に盛ります。
■供花: 菊やユリ、故人が好きだった花がよく用いられています。